断腸

作者

劉義慶

四〇三年～四四四年。六朝時代の宋の武帝の甥で、臨川王の称号を継ぎ、中書令・荊州刺史・江州刺史を歴任した。文学を愛好し、その幕僚には袁淑・鮑照など一流の文人を多く集めた。『世説新語』は実際にはこれらの文人たちの手によって編纂されたものとされている。

出典

世説新語

三巻。後漢から魏・東晋末に至る知識人の逸話を集めたもの。逸話の内容によって、いわゆる孔門四科の徳行・言語・政事・文学に始まり、方正・雅量など三十六篇に分類して収める。三国対立から晋の東遷に至る不安と混乱の時代に、個性・教養・機知にあふれ、自由奔放な生き方を求めた人々の姿が簡潔な文章で生き生きと描かれており、六朝文学を代表するとともに、この時代の文化史・思想史の資料としても貴重なものである。梁の劉孝標の注が優れる。本文は「黜免」篇第二十八第二話からとった。「黜免」とは、官位を落とされたり免職されたりすること。本教科書は、明治書院『新釈漢文大系　世説新語　下』（目加田誠著）によった。

参考文献

❊ **教師用**

「世説新語」（新釈漢文大系）目加田誠　明治書院　昭五十
「世説新語」（中国の古典）竹田晃　学習研究社　昭五十九
「世説新語」（鑑賞中国の古典）井波律子　角川書店　昭六十三
「中国人の機知」（中公新書）井波律子　昭五十八
「中国の隠遁思想」（中公新書）小尾郊一　昭六十三

❊ **生徒用**

「世説新語」（新書漢文大系）目加田誠　明治書院　平十五

要旨

子猿を捕まえられた母猿が悲しみのあまり死んでしまったのを見て、桓公は子猿を捕まえた部下を罰した。

構成

全文一段落。

訓読と現代語訳

①桓公蜀に入り、三峡中に至る。②部伍の中に猨子を得る者有り。③其の母岸に縁りて哀号し、行くこと百余里なるも去らず。④遂に跳りて船に上り、至れば便即ち絶ゆ。⑤其の腹中を破り視れば、腸皆寸寸に断えたり。⑥公之を聞きて怒り、命じて其の人を黜けしむ。

①桓公が蜀に（船で）攻め入り、三峡にさしかかった。②桓公の部隊の中に猿の子を捕まえた者がいた。③子猿の母は岸に沿って（後を追って）悲しげに鳴き叫び、百里余り行ってもつきまとって離れなかった。④そのうちに母猿は船に跳び乗り、到達するとすぐに息絶えてしまった。⑤母猿の腹を割いて調べてみると、はらわた（内臓）がどこもかしこもずたずたにちぎれていた。⑥桓公はこの話を聞いて怒り、命令してその部下の地位を下げさせた。

学習活動のポイント

学習活動のポイント

❶ 返り点に従い、本文を自分で繰り返し音読する。
❷ 書き下し文をノートに書く。[知技(2)ウ]
❸ 脚注を参照して本文を現代語訳し、疑問点を指摘する。[思判表B(1)オ]
❹ 桓公が、猨子を得た者を「黜」けた理由を説明する。[知技(1)エ、思判表B(1)ア・イ]　〔「学習のポイント」1〕

❶「訓読の世界」（P一一七～一二三）を踏まえ、各自で音読し、読む順番の分からない箇所、読めない漢字を確認する。
　次にペアで音読し合い、「上・下点」、熟語に戻る用法や、「不」の読み方を確認する。
　その後範読で正しい訓読を確認し、ペアまたは各自で繰り返し音読することで漢文の口調に慣れさせる。「入」「中」「得」「遂」「便即」「腸」「寸寸」の読みに注意する。
　大体読めるようになったら指名読みや一斉読みで定着を図る。
❷「書き下し文のまとめ」（P一二三）を参照し、「不」を平仮名で書き下すことを確認する。
　書き下し文の作成はあくまでも初学の段階での訓読の補助・活用や接続を確認する手段であり、書き下すことが目的ではないことを伝えるとよい。

展開

《板書例》

有下得二猨子一者上。
5 3 1 2 4
猨子を得る者有り。

破レ二視其腹中一ヲ
4 5 1 2 3
其の腹中を破り視れば、

【評価】 ノートに書かれた書き下し文を確認し、漢文を読むために必要な訓読のきまりを理解しているか、分析する。
❸ 全文を現代語訳してもよいし、書き下しの板書例を挙げた部分など一部分を指定して現代語訳（残りは現代語訳を配付）してもよい。
　脚注を用いて逐語訳をし、意味の分からない漢字は辞書を引く。本文中の重要単語は、巻末の「漢文の重要単語」（P三三五・三三六）を参照する。
　主語の省略されている文については、文脈から推測し、補ってみる。

現代語訳も書き下しと同様、本文の理解を助ける手段であり、現代語訳することが漢文読解の目的ではないことを確認する。

現代語訳を通じて内容を理解した上で、登場人物の関係や行動の理由などについての疑問を挙げてみる。

【評価】本文の内容を理解し、登場人物の関係や行動の理由などについて疑問点を指摘することで、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めているか、確認する。

❹「公聞レ之怒」とあるので、桓公が何に対して怒りを感じたのか、というところから考える。

「学習のポイント」1の解答例を参照。

【評価】桓公が、猨子を得た者を「黜」けた理由を本文に即して的確に捉えているか、ノートや提出物などにより確認する。

■まとめ

学習活動のポイント

❶「断腸」の意味を調べる。〔「言葉と表現」1〕

❷故事成語の元となった話を調べる。知技(2)イ〔「言葉と表現」2〕

❸「断腸の思い」という表現を用いて小話を作る。知技(2)エ 主態〔「言語活動」1〕

❶漢和辞典・国語辞典で調べさせる。漢文の窓②『三国志』を参照してもよい。

「言葉と表現」1の解答例を参照。

❷漢和辞典・国語辞典・資料集・インターネットで調べさせる。

「言葉と表現」2の解答例を参照。

【評価】「言葉と表現」2の故事成語について、歴史的・文化的背景などを理解しているか、確認する。

❸漢文の窓②『三国志』を読み、参考としてもよい。

「言語活動」1の解答例を参照。

【評価】故事成語「断腸」の現代の言葉とのつながり理解し、「断腸の思い」という言葉を用いて小話を作っているか、行動を点検したり、ワークシートの記述を確認したり、振り返りシートの記述を分析したりする。

発問例

●一三〇ページ

問　**「蜀」「三峡」（2行目）を地図で確認せよ。**

補　地理を確認することによって、単に文字だけ追っているのとは異なった、作品に対する具体的なイメージを持てるようになる。さらに地理から進んで、歴史的な興味へと発展させる契機にもなる。

問　**①「其」（3行目）、②「其」（4行目）、③「其人」（5行目）が指すものを、それぞれ本文中の語で答えよ。**

答　①猨子　②母（其母）　③得（ル）猨子（ヲ）者

問　**「其母縁レ岸（リテ）哀号（シ）」（3行目）について、**

1 現代語訳せよ。

2 A「哀号」における「号」と同じ意味の「号」を含む熟語を答えよ。

B「哀号」における「号」と同じ意味の「号」を含む熟語を次の中から選べ。

(ア)記号　(イ)信号　(ウ)号砲　(エ)号泣

答　1 子猿の母は岸に沿って（後を追って）悲しげに鳴き叫び

2 A 号泣（怒号）

B (エ)

問　**「行（クコト）百余里（ナルモ）不レ（ウ）去。」（3行目）とあるが、母猿はなぜこのような行動をとったのか、理由を説明せよ。**

答　奪われた子猿を、何とかして取り返そうとしたから。

問　**「遂跳（ニリテ）上レ（ニ）船、至（レバ）便即（チユ）絶。」（3行目）について、**

1 適切な言葉を補って現代語訳せよ。

2「絶（ユ）」のここでの意味を「絶」を含む二字の熟語で示せ。

答　1 そのうちに母猿は船に跳び乗り、すぐに息絶えてしまった。

2 絶命

問　**「腸皆寸寸断。」（4行目）とあるが、なぜそうなったのか。**

答　子猿を奪われた悲しみや心痛のため。

補　中国では、猿の声は悲しみを誘われるものだった。我が国の感覚と異なる点である。百人一首の「奥山に紅葉ふみわけ鳴く鹿の声聞くときぞ秋は悲しき」（猿丸大夫）などが思い合わされるところである。「解説」参照。

問　**「公聞レ之（キテヲ）怒」（4行目）について、**

1「之」が指す内容を本文中から抜き出し、初めと終わりの三字で答えよ。（句読点は含まない）

2「桓公」はなぜ怒ったのか、説明せよ。

答　1 部伍中～寸寸断

2 部下が子猿を思う母猿の情を理解せず、子猿を捕まえたから。

語句の研究

●一三〇ページ

1 断腸　はらわたがちぎれるような思いの悲しみ。非常な悲しみの例え。腸断とも。

2 桓公　桓温。三一二年～三七三年。東晋の武将で北朝との戦いに功績をたて、二十数年にわたって事実上東晋王朝を支配した。

2 入レ蜀　「蜀」は、中国の西に位置し、山々に囲まれた広大な地域。土地は肥え、要害の地であった。蜀の地は晋末に李雄が帝号を称して自立したが（成漢）、三四六年、桓温が攻め入り、李勢を討って東晋の領土となった。

2 三峡　瞿塘峡・巫峡・西陵峡を指す。長江が蜀の山地から楚の平野に入る辺りに続く険しい峡谷。

2 部伍　部隊。「伍」は、もと五人一組の軍隊の最小単位。転じて、「くみ・仲間」の意。

2 猨子　猿の子。「猨」は猿に同じ。

3 縁　…に沿って。

3 哀号　悲しい声で叫ぶ。「号」は叫ぶ。

3 行百余里　漢文（中国語）では数量を表す語は動詞の下に置かれるので、必ず「行（クコト）」

問「**命黜二其人一**（ソノヒトヲシリゾケシム）」（5行目）について、

1 A **句法に注意して現代語訳せよ。**

B **ここで使われている句法の名称を答えよ。**

2 **桓公が猿の子を捕まえた部下を「黜」けるよう命じたのはなぜか。**

答 1 A 命令してその部下の地位を下げさせた。

B 使役

2 相手が動物とはいえ、残酷な仕打ちをしたことが許せないと考えたから。

問「**断腸**」**という語について、**

1 **日本語では一般的にどのように使われているか。**

2 **前問 1 の意味を答えよ。**

答 1 断腸の思い

2 この上もなく悲しく、痛ましいこと。

解説

「黜免」篇には降格・免職に関わる逸話が載せられており、降格・免職をされる側の人、する側の人それぞれの事情や理由を通して、おのずと人物評価が浮かび上がってくる仕掛けになっている。この「断腸」も含めて、桓温については部下を免職させた話が数篇載っているが、いずれも権力者にありがちな恣意的なものでなく、筋の通った人間味を示している。すなわちこの話は本来、桓温の人間味や度量を示すための逸話であるわけだから、そこに一つのポイントを置いて読むべきである。ただし、「断腸」という成語自体は母猿の行為から生まれたものであって、桓温の人柄などとは関係がない。つまり原典の趣旨と故事成語としての意味とにずれがあるわけで、これもありがちな言葉の現実の姿としてもう一つのポイントになる点である。

なお、中国では猿はキーッと鳴き、悲しみを誘うものとされ、とりわけこの話の舞台でもある三峡は猿が多く、しばしば詩文に歌われている。杜甫、「登高」の「風急天高（カゼキフニシテテンタカク）猿嘯哀（エンショウアイナリ）、渚清沙白（シャセイニシテスナシロク）鳥飛廻（トリヒカイス）」は最も有名。また李白にも「両岸猿声啼（エンセイテイス）不レ住（トドマラ）、軽百余里」の語順になる（「百余里行」の語順にはならない）。上から読み下していくために「こと」と読まざるを得ないわけである。「里」は時代によって異なるが、この時代は約四四〇メートル。

3 跳 とびあがる。はねあがる。「おどル」の他に「とブ」「はねル」の訓もある。

4 便即 「便」「即」とも「すなはチ」と読み、「すぐに・そのまま」などの意。「便即」は、同じ意味の語を重ねる構造の熟語（連文）。

キー・ポイント **「命黜二其人一」使役形**

「黜」は、官位を下げる。職をやめさせる。熟して「黜免」ともいう。ある動作、ここでは「命」の結果として次の動作「黜」が使役になる例。したがって「黜」と読む。

舟已過万重山」の句（「早発二白帝城一」）があり、「世説新語」のこの条の劉孝標注にも漁師の歌として「巴東の三峡、巫峡長し、猿鳴くこと三声、涙裳を沾す」が紹介されている。